

【課題が明らかになった問題の分析と改善策】

## 1. 国語

|   | 問題番号 | 育てたい力                                       | 対象学年                        | 授業改善の具体策  | 検証方法                       |
|---|------|---|-----------------------------|---|----------------------------|
| 1 | 1四   | 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる力         | 第1学年<br>思判表<br>書くこと         | 「写真」の意見文の学習において、新聞記事にふさわしい写真を選び、そのように判断した根拠を明確にして、自分の意見を書くという授業を行う。根拠を明確にして、自分の考えが伝える学習を実施する。 | 1月<br>第1学年に「問題番号1三四」を実施する。 |
| 2 | 2三   | 自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができる力  | 第2学年<br>思判表<br>話すこと<br>聞くこと | 「プレゼンテーション」の学習において、資料や機器を活用して、分かりやすく伝わるように表現を工夫する学習活動を行う。                                     | 1月<br>第2学年に「問題番号2三」を実施する。  |
| 3 | 4二   | 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる力 | 第1学年<br>思判表<br>書くこと         | 文章を書く学習において、推敲のポイントを確かめた後、推敲をさせる学習をする。例えば、「日常生活から生まれる随筆」で文章を書き、そこで、推敲をさせ、文章を整える学習を行う。         | 1月<br>第1学年に「問題番号4二」を実施する。  |

## 2. 数学

|   | 問題番号 | 育てたい力   | 対象学年                           | 授業改善の具体策                                     | 検証方法          |
|---|------|---|--------------------------------|--|---------------|
| 1 | 2    | 割合、百分率の意味を理解し、正しく使うことができる力。<br>数量を文字を用いた式で表すことができる力 | 小学校5年生<br>割合<br>中学校1年生<br>文字と式 | 生徒一人一人の習熟の度合いに合わせて、「個に応じた指導」を常に意識しながら授業を進める。 | 1月<br>類似問題の実施 |
| 2 | 7(2) | 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる力     | 中学校2年生<br>割合                   | 生徒一人一人の習熟の度合いに合わせて、「個に応じた指導」を常に意識しながら授業を進める。 | 1月<br>類似問題の実施 |
| 3 | 4    | 一次関数において、変化の割合を基に、 $x$ の増加量から $y$ の増加量を求めることができる力   | 中学校2年生<br>一次関数                 | 生徒一人一人の習熟の度合いに合わせて、「個に応じた指導」を常に意識しながら授業を進める。 | 1月<br>類似問題の実施 |

## 3. 理科

|   | 問題番号 | 育てたい力   | 対象学年 | 授業改善の具体策   | 検証方法                              |
|---|------|---|------|--|-----------------------------------|
| 1 | 1(4) | 水の中の生物を観察することで、呼吸を行う生物の生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付ける力                        | 全学年  | ヒトの体のつくりとの比較から動物の体のつくりの共通点に気付かせ、ヒト以外の動物についても、消化系や呼吸系、循環系など生命を維持する仕組みがあることを理解させる。   | 1月<br>第3学年及び第2学年に「問題番号1(4)」を実施する。 |
| 2 | 2(1) | 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる力 | 全学年  | 音の大きさと振幅の関係や音の高さと振動数の関係について問題を見いだし、弦を用いて実験を行い、弦の振動では弦をはじく強さ、弦の長さや太さなどを変えて音を発生させ、音の大きさや高さを決める条件を見いだして理解させる。なお、このとき、条件を制御して行うことに留意させる。2、3学年でも、実験の際には、対照実験における条件制御を意識させる。   | 1月<br>第3学年及び第1学年に「問題番号2(1)」を実施する。 |
| 3 | 6(2) | スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できる力  | 第2学年 | 蒸散について、蒸散が行われると、吸水が起こることを実験の結果に基づいて理解させる。その際、葉の断面や気孔の観察と吸水の実験の結果を分析して解釈させ、吸水と蒸散とを関連付けて理解させる。茎や根の働きについては、水が根で吸収されること、水は根や茎にある維管束の中の道管を上昇することを茎などの断面の観察やデータと関連付けて理解させる。また、光合成によって生じた有機物は師管を通って他の部位に移動することを理解させる。 | 1月<br>第3学年及び第2学年に「問題番号6(2)」を実施する。 |